

# 〇〇〇〇学級 算数科学習指導案

## 1 単元 「〇〇〇〇しょうてんがいをひらこう」

### 2 単元について

#### (1) 基礎・基本

##### ① 本単元で育てる基礎・基本

- 「おみせやさん」での数の操作活動に楽しく取り組もうとする。
  - 具体的な個数を1対1対応して数字に置き換えたり、2つの数をたしたり、かけたりわったりすることで、「おみせやさん」の品物の数を求めることができるようにする。
- 本単元は、半具体物の操作を通して、数タイルや数カード、数字や数式へと抽象化して数える力、個数を1ずつ数えることから、まとまりをつくって数える方法、たし算やかけ算・わり算の意味や数式の作り方などの基礎概念を個に応じた習得させることができると考えられ、生活に生きた力を培う上で価値ある単元である。

**あ**グループ（A児）：5までの数を1対1対応して数字に置き換え、「おみせやさん」の品物の数を求めることができるようにする。

**い**グループ（B,C,D児）：「あわせて」のことばに着目し、たし算（10までのたし算・くり上がりのたし算）をして「おみせやさん」の品物の数を求めることができるようにする。

**う**グループ（E,F,児）：「同じ数ずつに分けて」ということばに着目し、わり算の仕組みについて気付き、わり算をして「おみせやさん」の品物の数を求めることができるようにする。

**え**グループ（G,H,児）：問題をよく読んで、かけ算とわり算を使い分けて考え、「おみせやさん」の品物の数を求めることができるようにする。

##### ② 本単元を支える基礎・基本（考えをつくり出す基の考え）

**あ**グループ（A児）：5までの数を1対1対応する。5までの数の数唱ができる。5までの数の数詞が分かる。

**い**グループ（B,C児）：10までの数を数えることができる。10までの数の数系列がわかる。10までの数の合成ができる。

（D児）：20までの数を数えることができる。20までの数の数系列がわかる。20までの数の合成ができる。

**う**グループ（E,F,児）：100までの数を数えることができる。かけ算九九ができる。

**え**グループ（G,H,児）：100までの数を数えることができる。かけ算・わり算の計算ができる。

##### ③ 本時学習を支える基礎・基本（考えをつくる基の考え）

※②と同じ

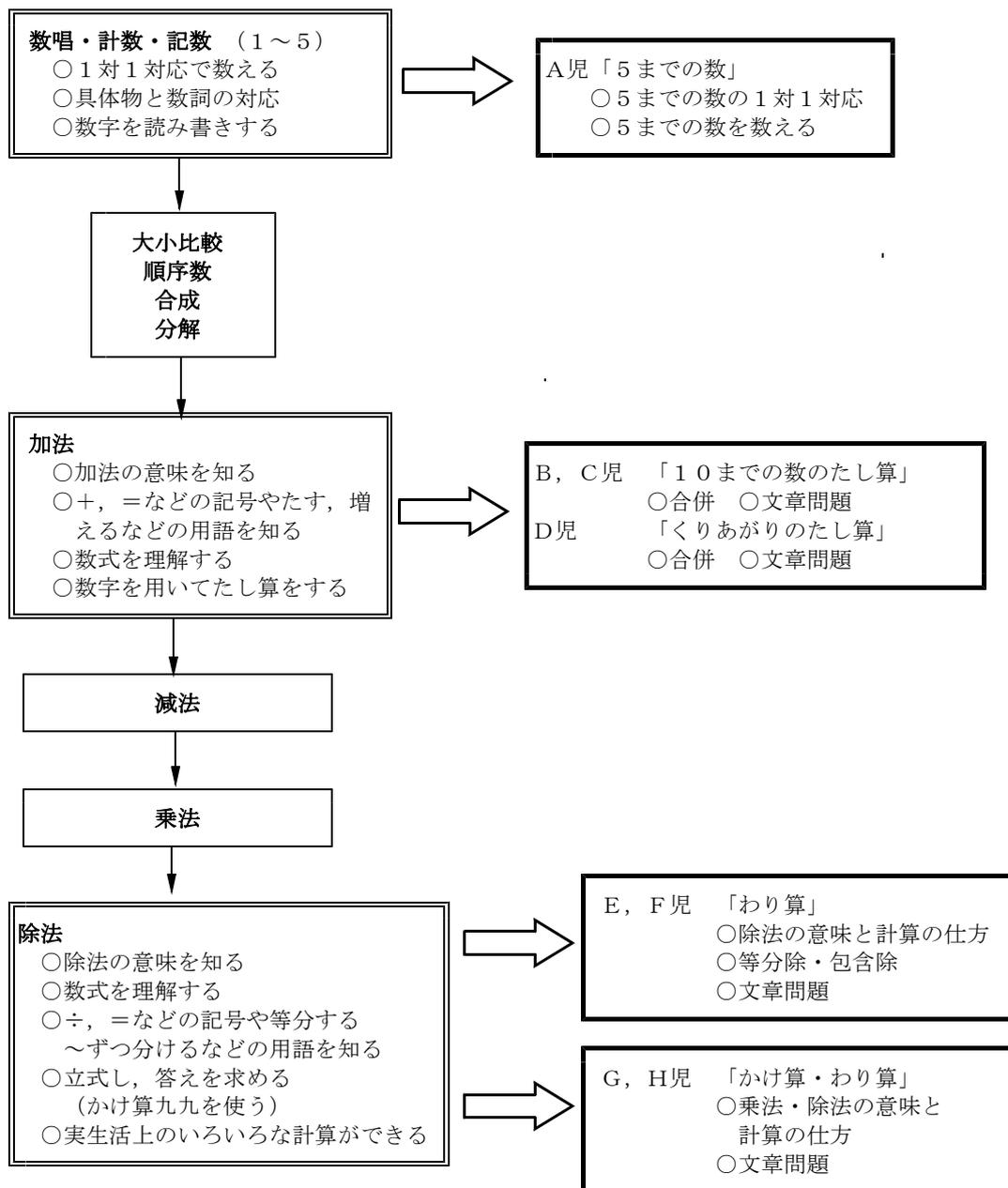
#### (2) 指導方法の工夫改善

##### ①各児童の実態と学習内容・支援について

	実 態	学 習 内 容	支 援	
あ グ ル ー プ	A 児 2 年	○5までの数を1対1対応することができる。 ○10までの数の数唱ができる。 ○同じ操作活動を繰り返し行い、やり方がわかれば、自分から進んで活動しようとするができる。	○5までの数を、1対1対応で数えたり、数字と対応させたりする。 ○品物を取り出す→数の箱に入れて数える→数タイルや数字カードと合わせる→数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。	○学習ノートに枠を作って、視覚的に数を捉えることができるようにする。 ○品物の模型や数タイル ○ことばかけや動作補助で声に出して数えることやタイル操作を促す。
	い グ ル ー プ	B 児 3 年	○10までの数を1対1対応で数えたり数字で書き表したり、数え足しをしたりすることができる。 ○教師のモデル提示や動作補助を伴うことばかけで見通しを持って活動することができる。	○10までの数のたし算をして、2つの数を合わせた数を求める。 ○カードを読んで品物の数だけ数を取り出す→2つの数の箱を合わせた数を数え、数字カードをつける→数タイルを操作して数式で表す→数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。
C 児 4 年	○10までの数を1対1対応で数えたり数字で書き表したりすることができる。 ○同じ操作活動を繰り返し行い、やり方がわかれば、教師のモデル提示や動作補助を伴うことばかけで見通しを持って活動することができる。	○10までの数のたし算をして、2つの数を合わせた数を求める。 ○カードを読んで品物の数だけ数を取り出す→2つの数の箱を合わせた数を数え、数字カードをつける→数タイルを操作して数式で表す→数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。	○学習ノートで数の変化を視覚的に捉えることができるようにする。 ○5のかたまりと1ずつで色分けした数タイル ○モデル演示や動作補助・ことばかけで音声化やタイル操作を促す。	

	D 児 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 100 までの数を唱えたり、数字で表したりすることができる。</li> <li>○ 10 までの数を数え足しすることができる。</li> <li>○ 算数に対する苦手意識が強く、取り組みに対する意欲をもたせるのが難しい。</li> <li>○ 教師のモデル提示など視覚的に理解できれば、見通しを持って活動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ くり上がりのたし算をして、2つの数を合わせた数を求める。</li> <li>○ カードを読んで品物の数だけ数を取り出す→2つの数の箱を合わせた数を数え、数字カードをつける→数タイルを操作して数式で表す→数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習ノートで数の変化を視覚的に捉えることができるようにする。</li> <li>○ 10のかたまり、5のかたまりと1ずつで色分けした数タイル</li> <li>○ モデル演示や動作補助・ことばかけで音声化やタイル操作を促す。</li> </ul>
う グ ル ー プ	E 児 4 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 100 までの数を唱えたり、数字で表したりすることができる。</li> <li>○ 1桁のくり上がりのあるたし算やくり下がりひき算を計算することができる。</li> <li>○ ～こずつのまとまりを絵に書いて、かけ算を考えることができる。</li> <li>○ 手順表と教師の説明で見通しを持って活動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ わり算の仕組みに気付き、除数と被除数に着目してわり算をし、品物の数を求める。</li> <li>○ カードを読んで、品物やお皿を取り出す→品物を数えてお皿に分け、わり算の式を見つける→数カードをはり、わり算の式で表す→数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数対象の除数・被除数に着目しやすいうように、半具体物を使って「～ずつ分ける」を捉えさせる。</li> <li>○ わり算の意味を捉えられるように「～ずつのいくつ分で～」「同じ数に分けると」ということばに着目するようことばかけを行う。</li> </ul>
	F 児 5 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 100 までの数を唱えたり、数字で表したりすることができる。</li> <li>○ たし算・ひき算は、指を使って行う。</li> <li>○ かけ算・わり算の計算ができる。</li> <li>○ 注意の集中に斑はあるが、手順表と教師の説明で見通しを持って活動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ わり算の仕組みに気付き、除数と被除数に着目してわり算をし、品物の数を求める。</li> <li>○ カードを読んで、品物やお皿を取り出す→品物を数えてお皿に分け、わり算の式を見つける→数カードをはり、わり算の式で表す→数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数対象の除数・被除数に着目しやすいうように、半具体物を使って「～ずつ分ける」を捉えさせる。</li> <li>○ わり算の意味を捉えられるように「～ずつのいくつ分で～」「同じ数に分けると」ということばに着目するようことばかけを行う。</li> </ul>
え グ ル ー プ	G 児 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2桁のくり上がりのあるたし算・くり下がりのあるひき算の筆算ができる。</li> <li>○ 100 までの数を位取りを理解して捉えることができる。</li> <li>○ 乗数が1けたのかけ算ができる。</li> <li>○ 除数が1けたのわり算ができる。</li> <li>○ 文章題では、かけ算とわり算の使い分けが難しい。</li> <li>○ 手順表と教師の説明で見通しを持って活動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ かけ算やわり算の意味を捉えて、乗数と被乗数、除数と被除数に着目させる。そして、適切に使い分けて、必要な数を求めていく。</li> <li>○ カードを読んで、かけ算かわり算かどちらで解けばいいのかを考え、品物やお皿を取り出す→問題に応じて品物の数を数え、かけ算・わり算の式を見つける→数カードをはり、かけ算・わり算の式で表す→数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 半具体物を操作し、数対象の乗数や被乗数、除数や被除数に着目できるようにする。</li> <li>○ かけ算やわり算の意味を捉えやすいうように「～人ずつのいくつ分で～」「同じ数に分けると」などのキーワードとなることばに着目するようことばかけを行う。</li> </ul>
	H 児 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2桁ののくり上がりのあるたし算・くり下がりのあるひき算の筆算ができる。</li> <li>○ 1000 までの数を位取りを理解して捉えることができる。</li> <li>○ 乗数が1けたのかけ算ができる。</li> <li>○ 除数が1けたのわり算ができる。</li> <li>○ 文章題では、かけ算とわり算の使い分けが難しい。</li> <li>○ 手順表と教師の説明で見通しを持って活動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ かけ算やわり算の意味を捉えて、乗数と被乗数、除数と被除数に着目させる。そして、適切に使い分けて、必要な数を求めていく。</li> <li>○ カードを読んで、かけ算かわり算かどちらで解けばいいのかを考え、品物やお皿を取り出す→問題に応じて品物の数を数え、かけ算・わり算の式を見つける→数カードをはり、かけ算・わり算の式で表す→数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 半具体物を操作し、数対象の乗数や被乗数、除数や被除数に着目できるようにする。</li> <li>○ かけ算やわり算の意味を捉えやすいうように「～人ずつのいくつ分で～」「同じ数に分けると」などのキーワードとなることばに着目するようことばかけを行う。</li> </ul>

②本単元の系統表



③指導・支援について

- 本単元に関わる既習内容については、一人一人の実態をチェックし、習得できていない内容を把握し、それを繰り返し学習することにより、定着化を図るようにする。
- 本単元で身に付けさせたい基礎・基本は、「おみせやさん」の品物の数を求めるという活動を行うことにより、具体的な個数を1対1対応して数えたり、たし算・かけ算・わり算をしたりすることであると考える。  
本単元の指導にあたっては、子どもたち自らが「○○○○しょうてんがいをひらこう」という意識のもとに、いろいろな品物（やさい・くだもの・さかな・おかし・パン・おもちゃ・食品・文具）の数を数えたり、計算して数式にまとめたりして、操作活動に楽しく取り組んでいけるようにする。そのために、
- 「○○○○しょうてんがい」で扱う品物を使っておみせやさんづくり作りをし、操作活動の対象になるものに興味・関心をもつことができるようにする。そして、活動の目的や見通しを持つことができるようにする。
- 「○○○○しょうてんがいをひらこう」で数理を深めるために、半具体物→抽象物や数式→数字や数式という手順で表現していく操作活動に繰り返し取り組むことができるよう、個に応じた学習ノートと質問カードを提示する。そして、数範囲を小さい数から次第に大きくしたり、計算の難易度を上げたり、さらに、いろいろな数を組み合わせたものへ広げたりする。
- 一人一人が自分の学習ノートを発表することで学習を振り返るとともに、友だちが取り組んだことを互いに見合い、活動の達成感が味わえるようにする。

(3) 指導計画 (全8時間)

時	学 習 内 容 (※個に応じた指導)		評価の観点				評 価 基 準
			関	数	表	知	
1	○「〇〇〇〇しょうてんがいをひらこう」に出会う。 いろいろな品物を使っておみせやさん作りをし、学習の目的や見通しを持つ。		○				「〇〇〇〇しょうてんがいをひらこう」に興味を持つことができる。
2 3 4 5 6 7 8	○「〇〇〇〇しょうてんがい」作りをする。 ※以下の1～3の活動を毎時間繰り返し行う。		○	○	○	○	活動の手順や自分のめあてを確認し、見通しを持つことができる。 問題を取り出し、ことばやを数タイルに置き換えることができる。 操作したことを数式で表し、まとめる。 学習ノートを見ながら、活動したことを振り返ることができる。 がんばったことを発表することができる。
	1 活動の見通しを持つ						
	2 各児童の数範囲で数の操作活動をし、学習ノートにまとめる。						
	3 学習ノートについて発表する。						
(本 時 4 / 6 )	時	あグループ (A児)	いグループ (B,C児)	(D児)	うグループ (E,F児)	えグループ (G,H児)	
	1	1～5まで	(1～3)+(1～3)	(8～9)+(1～4)	等分除	かけ算	
	2	↓	↓	↓	↓	わり算	
	3		(4～5)+(1～3)	(6～7)+(1～4)	包含除	かけ算・わり算	
	4		↓	↓	↓		
	5	↓	(1～5)+(1～3)	(5～6)+(5以上)	混合		
	6		↓	↓	↓		
8	○「〇〇〇〇しょうてんがいをひらこう」のまとめをする。		○				学習ノートを見て、「〇〇〇〇しょうてんがいをひらこう」の学習を振り返り、充実感や達成感を味わっている。

## 活動性と追究性を重視した学習展開

## 1 本時の目標

- 「○○○○しょうてんがいをひらこう」で数の操作活動に楽しく取り組むことができるようにする。  
(関心・意欲・態度)
- 具体物の個数を捉えて、数字に置き換えたり、2つの数をたしたり、かけたり、わったりすることで、遊具に乗っている人の数を求めることができるようにする。  
(数学的な考え方)
  - あグループ (A児) : 5までの数量を1対1対応して数えることができるようにする。
  - いグループ (B, C児) : 10までの数のたし算をすることができるようにする。  
(D児) : くり上がりのたし算をすることができるようにする。
  - うグループ (E, F児) : わり算をすることができるようにする。
  - えグループ (G, H児) : 問題をよく読んで、かけ算とわり算を使い分けて考え、「おみせやさん」の品物の数を求めることができるようにする。

## 2 本時授業仮説と仮説検証のための具体的な手立て

## (1) 本時授業仮説

「○○○○しょうてんがいをひらこう」の場において、次のような手立てを取れば、児童は、自分なりの見通しを持ち、学ぶ楽しさを味わいながら、個に応じた基礎的な数の概念を身につけることができるであろう。

- 問題設定の工夫
- 個に応じた操作活動の工夫
- 個の問題解決に応じた教材・教具の工夫
- 学習ノートを発表する場の工夫

## (2) 仮説検証のための具体的手立て

- 問題設定の工夫
 

児童にとっては身近な「おみせやさん」という場を使って、興味・関心を持つことができるような問題を設定し、進んでやってみたいという意欲を持つことができるようにする。また、一人一人の目標、学習内容に応じた問題を作成する。
- 個に応じた操作活動の工夫
 

個に応じて次のような操作活動を設定し、繰り返し行う。

5までの数を数える あグループ (A児) は、

  - ①品物を取り出す。②数の箱に入れて数える。③数タイルや数字カードと合わせる。④数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。

たし算をする いグループ (B, C, D児) は、

  - ①問題カードを読んで品物の数だけ数を取り出す。②2つの数の箱を合わせた数を数え、数字カードをつける。③数タイルを操作して数式で表す。④数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。

わり算をする うグループ (E, F児) は、

  - ①問題カードを読んで、品物やお皿を取り出す。②品物を数えてお皿に分け、わり算の式を見つける。③数カードをはり、わり算の式で表す。④数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。

かけ算・わり算をする えグループ (G, H児) は、

  - ①カードを読んで、かけ算かわり算かどちらで解けばいいのかを考え、品物やお皿を取り出す。②問題に応じて品物の数を数え、かけ算・わり算の式を見つける。③数カードをはり、かけ算・わり算の式で表す。④数えた品物をお店に並べ、操作したことをノートにまとめる。
- 個の問題解決に応じた教材・教具の工夫
 

5までの数量、たし算、かけ算、わり算の操作がしやすいような教材・教具を工夫し、自分なりの見通しをもって活動し、個の問題を解決していくことができるようにする。

あグループ (A児) : 1～5までの数の箱、品物の絵の付いた数タイル 数字カード

いグループ (B,C,D児) : 数の箱 数タイル 数字カード

うグループ (E, F児) およびえグループ (G, H児) : 品物をまとめたり分けたりする皿 数カード
- 学習ノートを発表する場の工夫
 

学習したノートを見せながら発表する場を設定し、自分の自分の活動を振り返ったり、友だちの発表を聞いて、自分の活動と比べてたりして、達成感を味わったり、次時の活動への興味を喚起したりする。

3 学習過程

配時	個の学習活動 指導の意図と手立て (※個に応じた手立て)				評価の観点
2分	<p>1 <b>は</b>っきりつかもう。</p> <p>(1) 学習問題を知る。</p> <p>○ 本時も、おみせやさん作りをして、品物の数を数えたり、計算したりすることへの興味・関心を持たせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「○○○○しょうてんがいをひらこう」</div>				○操作活動を手順通りに行っているか。
8分	<p>2 <b>こ</b>んなめあてでやってみよう</p> <p>(1) 個の学習のめあてや活動の手順を確認する。</p> <p>○ 手順表を見て、自分のめあてや活動の手順を確認し、学習の見通しを持たせる。</p>				
25分	<p>(2) 個別の学習を進める</p> <p>○ 既習の学習経験を生かし、おみせやさん作りの場を設定し、この問題に応じた操作活動を自分で進めさせる</p> <p>※ 自分で活動を進めることができているか、机間巡視しながら言葉かけをしたり、モデルを示したりして支援する。</p>				
	A児	B・C児	D児	E・F児	G・H児
	かぞえて	あわせて (たし算)		~ずつ分けて (わり算)	使い分けて (かけ算・わり算)
	○品物を取り出す	○問題カードを読んで、品物を数だけ取り出す。		○問題カードを読んで、品物やお皿を取り出す。	○問題カードを読んで、品物やお皿を取り出す。
		なすを4こと トマトを2こ はこにいれました あわせて なんこでしょう	あめを8こと ケーキを3こ はこにいれました あわせて なんこでしょう	かにが24ひきいます 4ひきずつさらにわけました さらは、何さらできるでしょう	サンドイッチを3つずつさらに入れます さらは、4まいつかいます サンドイッチは、ぜんぶでいくつでしょう
	○数の箱で数える	○2つの数の箱を合わせた数を数え、数字カードをつける。		○品物を数えて皿に分け、わり算の式を見つける。	○問題文のキーワードに着目して、何算で考えたらいいか式を見つける。
	○数タイル・数字タイルとあわせる	○数タイルを取り出し、たし算の式で表す。		○数カードをはり、わり算の式で表す。	○数カードをはり、式で表す。
					○操作活動をもとに、数字や数式で表しているか。

<p>○数えた品物をお店に並べ、数タイトルをノートにはって、数字を書く。</p>	<p>○数えた品物をお店に並べ、ノートに数タイトルをはったり、式を書いたりしてまとめる。</p>	<p>○数えた品物をお店に並べ、ノートに数カードをはったり、式を書いたりしてまとめる。</p>	<p>○数えた品物をお店に並べ、ノートに数カードをはったり、式を書いたりしてまとめる。</p>	<p>○操作したことを、学習ノートにまとめているか。</p>
<p>8分</p>	<p>3 さあ発表しよう  (1) 学習したことを発表し合う。  ○ 一人ずつ作ったお店と学習ノートを見せて、がんばったことを発表させる。</p> <p>4 きちんとまとめよう  (1) 本時の学習をまとめる。  ○ 一人一人ががんばったことを賞賛し、活動の達成感や充実感を味わえるようにする。</p>			<p>○友だちの発表を聞いているか。  ○次時への学習への意欲が見られるか。</p>
<p>2分</p>				

5 学習構想図

